【4年生】　『親切、思いやり』**の学習より**

ねらい　見守ることも親切のひとつであることに気づき、思いやりの心をもって親切にしようと

する心情を育てる。

～資料～　「心と心のあくしゅ」　主題名：ほんとうの親切

　　主人公「ぼく」は、学校が終わって家に帰る途中、一人のおばあさんが大きい荷物を持って道を歩いているのを見かける。「荷物、持ちます。」と声をかけるが、断られてしまい残念に思った。その後、母親の話から、おばあさんが少し前まで病気だったことや、現在病気が治り歩く練習をしていることを聞かされる。数日後、同じおばあさんに出会った「ぼく」は、考えた後、今度は声をかけずに見守り後ろをついていくことにする。家に着き、振り返ったおばあさんの笑顔を見て「ぼく」の心は明るくなり、心と心であくしゅをしたような気持ちになった。

**〇もしあなたが「ぼく」だったら、声をかけましたか？**

　声をかける

　・重そうにしている、外は暑い、これ以上身体が悪くなったらかわいそう。

　・声をかけないでいると、きっとそのあと振り返ったとき、気持ちがもやもやしてしまうと思う。

　声をかけない

　・また断られたらどうしよう。ちょっと怖い。迷惑かもしれない。

　・母の話を聞いて、見守りたいと思った。

　・おばあさんが頑張っているところを邪魔したくない。

**〇ほんとうの親切ってなんだろう**

・二つの意見はどちらも間違っていない＝二つに共通している考え方を探してみよう！

・相手の気持ちを考えるということ。立場や考え方を理解して、状況をよく見て判断することが大切。

・親切は行動以外でも示すことができる。「相手を支えてあげよう」という気持ちが大事。

**〇ほんとうの親切について考えたこと**

**～児童の「道徳ノート」から～**

・「おばあさんを助けたい」という自分の気持ちを優先していたけれど、この学習を通して、「早く自分で歩けるようになりたい」と考えているおばあさんの気持ちも大事なんだとわかりました。相手のことをよく考えて行動を決めることができるのが、本当の意味で親切なんだと思いました。

・声をかけても、かけなくても、どちらも優しさだと思います。大事なのは、おばあさんの気持ちをよく考えたかどうかということです。これからは、人の気持ちをよく考えてから手伝いたいと思いました。

